

選抜区分： 学校推薦型選抜(指定校・公募制)第2期

科目： 小論文

学部： 経営法学部

[設問2] 出題の意図

生成 AI による偽情報、誤情報の増加という弊害にいかに対処していくかを論じた雑誌記事(一般誌)からの抜粋である。

受験者の世代にとっても身近な存在となりつつあるであろう生成 AI の普及がもたらす弊害を取り上げたうえで、こうした弊害に対処するための法規制のあり方を考えさせることで、高等学校における学習やこれまでの社会生活で培われた社会科学に対する素養を問う趣旨の出題である。

本問は学校推薦型選抜の試験問題であることから、この課題の成果をもって、受験者の問題把握能力、社会科学に対する関心・素養の程度を把握し、各人に応じた入学前教育及び初年次教育を行うための資料とすることも企図している。

同時に、本課題に取り組むことによって、偽・誤情報の拡散という現代的な問題から、適切な法規制のあり方如何という社会の制度設計にかかわる関心を引き起こし、経営法学部アドミッション・ポリシーである「旺盛な知的好奇心をもち、自ら積極的に学修や研究に取り組む意欲を持つ人」を養成することを目指すものである。

[設問2] 評価の観点

評価に当たっては、生成 AI の普及による弊害と、これに対する過剰・広範な法規制がはらむ別の弊害を理解したうえで、説得的かつバランス感覚のある見解が述べられているのかという点に着目する。